

## フジ TV で放映されました

土屋光男（9 組）

（昭和の安茂里を語り継ぐ会事務局長）

10 月 23 日（水）の夜、私たちがずっと続けている活動が TV で全国放映・紹介されました。番組は 19 時からのフジ TV「世界の何だコレ！？ミステリー」です。番組コピーは「何のために掘ったのか分からない“巨大空間”、長年ナゾだった正体を解明！」  
<https://www.fujitv.co.jp/sekainonandakore/archive/20241023.html>

「え！旧海軍が海なし県の信州に最高司令部を移し、最後の戦いをしようとしていたなんて、それ本当？」これが一般の反応です。

公文書などがほとんど焼却され、終戦間際の旧海軍の動きについては「歴史の空白」と言われるように事実は隠蔽され続けてきましたが、奇跡的に保管されていた当時の安茂里村村長の「自由日記」から長野市での旧海軍の動きが解明されつつあるのです。

このことに筆者（土屋）もずっと関わってきましたが、この度、フジ TV からオファーがあり、ただ面白かしくだけなら断るつもりでしたが、数回のやり取りのなかで、取材意図がますますのものでしたので、応ずることにしました。

本番の取材は、9 月 3 日の午後半日ほどでしたが、昭和の安茂里を語り継ぐ会の会員全員で臨みました。番組レポーターのコカドケンタロウ（編集注：1978 年生、お笑いコンビ・ロッチのツッコミ）がかなり有名だということを筆者も含め誰も知らなく、後で家族から「知っていたら行ったのに」と言われたと仲間の数人がぼやいていました。

そして 10 月 23 日に放映された内容は、ほぼ合格点でした。

番組終了直後に温かいメールが何通か届きましたので紹介します。

「最後まで何の穴で、何の目的の穴なのか、また誰が開けたのかを明かさなくて編集されていたので、ミステリーとして良かった」（同期 9 組の土屋啓郎君）

「内容が一般の人に興味を持ってもらえる構成で、一段と世の中に知られることになりました。

貴君たちの努力が報われて私も嬉しいです」（同期 9 組の塚田修君）

とりわけ嬉しかったのは、高校卒業以来、音信がなかった関東在住で同級の牧野泉君や宮原豊君（いずれも 9 組）から「たまたま番組をみていたら、土屋君が出ているのでたまげた」とメールがあり、思わず高校時代の頃が蘇っていました。

昨年、この旧海軍部壕には同期の上原昇君（2 組）、塚田修君、増澤賢一君（9 組）たちが見学に来てくれました。その時の再会の感動が本当に有難く、今の私を大変励ましてくれています。

戦後 80 年を迎える来年、ますます旧大本営海軍部壕は注目されるはずです。

そして「松代大本営」という呼び方は「長野大本営」の改められると思います。

今後、同期諸氏も我々の営みにお力添えくださるよう、よろしく願いいたします。

次頁は筆者が最近経験した入院・手術の話です。

## 病（やまい）とともに心も癒された五日間

鼠径（そけい）ヘルニアは場合によっては命にかかわると知り、急遽、篠ノ井総合病院にお世話になることにした。やや緊張したものの旧海軍部壕の取り組みをご一緒している仲間に励ましてもらい、10月8日入院、9日手術も無事終わり、12日に晴れて自宅に戻れた。

この間の四泊五日は実に快適に過ごすことが出来た。

自分は当病院ではこれで三度目の全身麻酔の手術となるが、機器から電子カルテに入力するなどの医療技術の進歩ぶりには驚かされた。

そして、術前の説明なども非常に懇切丁寧に進めてもらった。

さらに感動したことは、主治医は何回も病室に診に来てくれるし、看護師は勤務の交代にはその都度挨拶に来るのである。おまけに最後には必ず「有難うございます」と。それはこっちが言うことなのにと、返礼しつつも恐縮の極み。

そういえば、午前と午後、来てくれるお掃除の方もそうだった。

それらの人の日々振る舞いに接して、人生の過ごし方、生き方を学んだ気がする。

このような居心地の良さは病院のスタッフ全ての皆さんが「患者さんは大切なお客様」の姿勢で臨んでいることであり、感動した五日間だった。

お陰様で、人生最後の仕事である「大本営の移転に伴う終戦時の長野の軍事状況」について、さらに解き明かすことへのやる気が強まった次第である。

本当に有難うございました。

(2024年10月29日記)

写真左は旧海軍部壕前で筆者

旧海軍部壕の入り口



以上